

		5歳児			第1学年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		①期待する子どもの姿を明らかにする					
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		②期待する子ども像に関連がある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見出す					
と大切にしたいこと 単元環境 の先生 ドワーキー		③発達段階を踏まえ、期待する子ども像に迫るために大切にしたいことを共有					
主な教育課程・予想される活動		④期待する子ども像に迫るための主な教育課程や予想される活動をデザイン ↓ 実践記録へ					
振り返り		⑥実践を振り返り、教育課程や活動を見直す(加筆・修正)					

※「架け橋期カリキュラム」は、幼保小の先生方が協働し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに策定できるよう工夫しましょう。  
また、大切にしたい共通の視点を協議することで「期待する子ども像」に迫りましょう。

※共通シートと実践記録を使い、幼保小の先生方が一緒に振り返り、AARサイクルで検証・改善を図りましょう。

		5歳児			第1学年
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7
期待する子ども像		共通シートから転記			
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿					
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿		⑤共通シートに記載している主な教育課程・予想される活動を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿を描きだす			
他園・小学校からのコメント		⑦共通シートおよび実践記録を共有、コメントを記載し、フィードバック			

	5歳児		第1学年	
時期	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像	共通シートから転記			
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿				
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿	<p>⑤共通シートに記載している主な教育課程・予想される活動を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿を描く</p>			
他園・小学校からのコメント	<p>⑦共通シートおよび実践記録を共有、コメントを記載し、フィードバック</p>			

	5 歳 児			第 1 学 年			
時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	
期待する子ども像	目的に向かって、互いの思いやイメージを共有し、よりよいものにするために練り合う子ども			目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友だちと話し合ったりする子ども			
幼児期の終わりに育つてほしい姿	言葉に伝える	自分の思いを保育者や友だちに言葉で伝えようとする	友だちと話し合いながら一緒に遊びを進めていく	目的に向かってよりよいものにするために練り合う	新たな友だち関係の中で自分の思いを伝える	目的に向かって友だちと話し合いながら進めていく	友だちとのやり取りの中で新たな考えを見出す
	協同性	共通の目的に向かって友だちとの活動を楽しむ	共通の目的に向かって友だちと協力して進める	一つの目的に向かって協力して最後までやり遂げようとする	自分の思いや考えをもち、友だちと学びを進める	目的に向かって自分の力を発揮しながら友だちと協力する	友だちと意見を交わしながら新しい考えを生み出すなど工夫して取り組む
大切にしたいこと	環境	・本物らしさを追求できるような材料や道具 ・ルールややりとりがある遊び		・試したり、工夫したりできる場	・子ども同士がつながったり、活動を生み出す教室環境 ・見通しをもち試行錯誤する単元 ・ペアやグループでの活動 ・児童の思いや願いを生かした単元		
	先生との関わり	一人ひとりが安心して自分の思いを出せるようにする	子ども同士がつながり合えるように声をかける	就学への期待をもって生活できるようにする	・一人ひとりの生活背景を踏まえ、保護者をつながり安心して思いを出せるようにする ・これまでの経験を踏まえ児童の力を引き出す		・児童が自ら創造することを援助する
	ドワキ	安心して自分が出せる環境		じぶんだいすき ともだちだいすき 互いを認め、受け入れる仲間	一人ひとりを大切にする関わり		
主な教育課程・予想される活動	④期待する子ども像に迫るための主な教育課程や予想される活動をデザイン						
	↓						
	<b>実践記録へ</b>						
振り返り	⑥実践を振り返り、教育課程や活動を見直す(加筆・修正)						

		5歳児			第1学年	
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	
期待する子ども像		目的に向かって、互いの思いやイメージを共有し、よりよいものにするために練り合う子ども			目的を達成するために、見通しをもち、試したり、調べたり、友だちと話し合ったりする子ども	
育っている姿	言葉による伝え合い	自分の思いを保育者や友だちに言葉で伝えようとする①	友だちと話し合いながら一緒に遊びを進めていく	目的に向かってよりよいものにするために練り合う		
	協同性	共通の目的に向かって友だちとの活動を楽しむ②	共通の目的に向かって友だちと協力して進める	一つの目的に向かって協力して最後までやり遂げようとする		
幼児期の終わりにまで子どもの学びの姿が見られた		<p>A児が園庭でカタツムリを見つけた。クラスの飼育ケースに入れて、喜んで「ほら歩いているよ」と見せて歩く①と、B児が「どこにいたの？ ぼくも捕まえた①②」と、園庭を探し始めた。二人で葉っぱの表裏や土の周辺を探す②が、なかなか見つかることはできなかった。</p> <p>集まりの時間にA児がみんなにカタツムリを紹介し①、「それどうするの？」と尋ねると「飼いたい①」という。「飼育ケースにカタツムリだけ入れておけばいいのかな？ 何を入れるといいんだろう？」という、図鑑を見るという子どもたち。図鑑を開いて飼育の仕方を見て、「これを食べるんだって！ ②」と大騒ぎの子どもたち。さっそくカタツムリのおうちが作られた②。</p> <p>翌日、A児はカタツムリのごはんをもってきたと、ニンジンのはたをもってきた。入れておくと、午後になってA児は「食べてる！」「これ、うんちかな？！」と観察が始まった①。きゅうりも食べるらしい①、給食室でへたをもらえないかな？①②と、お願いに行くことになった。</p> <p>遊びの時間、A児は紙にひらがなでカタツムリの名前の候補を書き始める。「名前を聞かれたんだけどまだ決めていなかったから...①」というA児。かたくん、かるくん、つむくん...。どれにしようかなと悩むA児①。みんなに聞いてみたいということになり、集まりの時間に、みんなで決めることになった②。</p>				
他園・小学校からのコメント		<p>⑦共通シートおよび実践記録を共有、コメントを記載し、フィードバック</p>				

# 0歳から7歳における共通の視点の手掛かり例（案）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	
環境・単元の工夫（例）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔で快適な環境</li> <li>・感覚の働きを豊かにする遊び</li> <li>・感触や温度、音、大きさ、形など適切な玩具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆったりと落ち着いた環境</li> <li>・全身を使う遊びと指先を使う遊び</li> <li>・見立て遊びが充実するような用具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくり遊びに向かえる環境</li> <li>・一人ひとりの好きな遊びや興味に添った遊び</li> <li>・同じ種類の用具や玩具の数への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの存在を感じられる場や物の配置</li> <li>・遊びの中で出会う身近な自然や素材・材料・遊具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3、5歳児との関わりが生まれる場や物の配置</li> <li>・イメージを広げられる様々な素材・材料・遊具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試したり、工夫したりできる場や物の配置・時間</li> <li>・ルールややりとりがある遊び</li> <li>・本物らしさを追求できるような材料や道具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士がつながったり、活動を生み出したりする教室環境</li> <li>・年間を見通した合科的・関連的な学習</li> <li>・試行錯誤のある活動を設定</li> <li>・児童の思いや願いを生かし、豊かな表現活動のある単元</li> </ul>		
先生の関わり（例）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かいまなざしと言葉かけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分でしたい」を見守り・支える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちとの仲立ち</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り、必要な時に援助</li> <li>・幼児と共に考える・振り返る</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経験を踏まえ児童の力を引き出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気づきを促し、学びや成長を自覚できる支援</li> </ul>	
一人ひとりの子どもに応じた支援の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包み込まれる感触や五感を意識した関わり</li> <li>・愛着形成のベースとなる安心感</li> <li>・愛情ある声かけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔と声のトーンによる安心感</li> <li>・共同注意の形成をうながす（同じものを見て笑い合う等）</li> <li>・肯定的な声かけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗を悪いことと思わせない受け入れ</li> <li>・自立性を見守り挑戦できるようにする</li> <li>・没頭できる時間を大切にす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や疑問を見逃さない</li> <li>・言語コミュニケーションをうながす（代弁する等）</li> <li>・他に興味をもてるような声かけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試行錯誤するための働きかけ</li> <li>・待つ姿勢と少し離れたところからの見守り</li> <li>・周囲の状況を知らせたり、相手の気持ちを代弁したりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちの理解をうながす</li> <li>・感情コントロールできた場面を見逃さずほめる</li> <li>・他者との関わりの良さを価値付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や遊びの中にも学びを仕組む</li> <li>・興味・関心を大切にす</li> <li>・できないことではなく、できるようになったことに着目できるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わからないこと、できないことを認める</li> <li>・成果や成長を可視化する</li> <li>・取り組もうとする気持ち、失敗から学ぶ気持ちを大切にす</li> </ul>	

	5歳児			第1学年		
時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像						
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿						
大切にしたいこと	単元環境 の先生 ドワーキー					
主な教育課程・予想される活動						
振り返り						

※「架け橋期のカリキュラム」は、幼保小の先生方が協働し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに策定できるよう工夫しましょう。  
また、大切にしたい共通の視点を協議することで「期待する子ども像」に迫りましょう。

※共通シートと実践記録を使い、幼保小の先生方が一緒に振り返り、AARサイクルで検証・改善を図りましょう。

		5歳児			第1学年
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7
期待する子ども像					
幼児期の終わりに育ってほしい姿					
幼児期の終わりに育ってほしい姿が見られた 子どもの学びの姿					
他園・小学校からのコメント					

	5歳児		第1学年	
時期	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像				
幼児期の終わりに育ってほしい姿				
幼児期の終わりに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿				
他園・小学校からのコメント				